

NO！リニア

No. 128

2021年12月9日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス↓



リニア建設中止を言い続ける！ リニア訴訟で連帯挨拶

「ストップ・リニア！訴訟」第21回口頭弁論が12月2日、開催されました。弁論終了後の報告集会で、裁判官が工事現場の現地視察を行う方向になっていることが、訴訟団から報告されました。開廷前のミニ集会では、JR東海労を代表して斉藤企画・業務部長が以下の連帯挨拶を行いました。なお、今弁論の様子は、「YouTube」で視聴することができます（「ストップ・リニア！訴訟」で検索）。

今日の裁判に15名の組合員が参加している。前回の口頭弁論の時に、組織部長の森下が「組織の弱体化を狙って、本部委員長が出向に出されそうだ」と報告した。会社はまずいと判断したのだろうか、直前になって出向を取りやめた（拍手）。会社は二の手三の手を考えていると思うが、私たちは断固として闘う。中間決算で会社は512億円（単体）の赤字を計上した。JR東海労は交渉の中で「会社が赤字を理由にリニアをやめると宣言すれば国民は納得する」と主張した。これからも会社に対しては「リニアはやめろ」と声を大にして言い続ける。10月27日にリニア工事の崩落事故で1名の作業員が亡くなった。翌28日に中間決算の経営協議会が開催された。その前段で、組合側から「黙祷しよう」と会社に提起したが、会社は拒否した。こういう姿勢が垣間見られた。今後も微力ではあるが、皆さんと連帯して闘っていく（拍手）。